



OSAKA MUSEUMSって面白いかも!

「OSAKA MUSEUMS」には80名以上の学芸員が所属しています。美術・歴史・自然・科学・・・それぞれの得意分野を持つ「学芸員」のを知ってもらえるように、学芸員が「いま」話したいことを皆さまにお届けするイベントを開催します。

開催方法

Facebook ライブにて配信いたします。(視聴無料/申込不要) ※当日会場でご参加はできません。

視聴方法

アートエリア B1 のウェブサイト (<http://artarea-b1.jp/>) よりご視聴ください。 ※タイトル・時間・内容等は予告なく変更したり、状況により中止する場合があります。あらかじめご了承ください。



2月6日(土)

大阪中之島美術館開館プレイベント ~ 大阪中之島美術館コレクションスペシャル

14:00-15:00
モディリアーニと
大阪中之島美術館



アメデオ・モディリアーニ 髪をほどいた横たわる裸婦

小川知子
大阪中之島美術館準備室
学芸員

2022年早春にオープンを迎える大阪中之島美術館。コレクションの中でも特に代表的とされるのがアメデオ・モディリアーニによる裸婦像です。細長い優雅な身体、アーモンド型の眼をした憂いのある人物像でも知られます。世界中に愛好家の多いモディリアーニ。画家が35歳の若さで没して100年の節目を迎えたいま、あらためてその芸術の魅力に迫ります。

15:00-16:00
大阪中之島美術館の
佐伯祐三コレクション



佐伯祐三 郵便配達夫

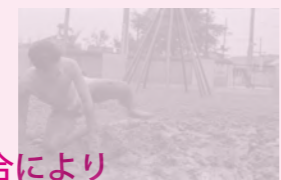
高柳有紀子
大阪中之島美術館準備室
学芸員

大阪に生まれ、パリで夭逝した天才画家、佐伯祐三。大阪中之島美術館の構想は、1983年の佐伯祐三作品等の受贈を機にスタートしました。現在では佐伯コレクションは約60点までに成長し、質量ともに国内最大級を誇ります。今回は、大阪中之島美術館の佐伯コレクションの成長を振り返るとともに、近年発見された作品についてもご紹介します。

2月7日(日)

大阪中之島美術館開館プレイベント ~ 大阪中之島美術館コレクションスペシャル

14:00-15:00
“今までにないものをつくる”ということ
—「具体」のばあい



白髪一雄 泥にいとむ

国井綾 主催者側の都合により
中止させていただきます。

1954年、大阪出身の画家・吉原治良を中心に結成されたグループ、具体美術協会(具体)。彼らのポリシー、「人の真似をしない。今までにないものをつくる。」は、半ば神話化されていまや伝説のように語り継がれています。でもそれって、何かを作る人にとって当たり前の事じゃないの? いやいや、当たり前だからこむずかしい? 彼らが作った「今までにないもの」、ご紹介します。

15:00-16:00
デザインの神様に
前髪はあるか



サルピウテ・アアルト

平井直子
大阪中之島美術館準備室
学芸員

幸運の神様には前髪しかないといわれますが、デザインの場合はどうでしょう。大阪中之島美術館は、モダンアートにおけるデザインの重要性を認め、準備室開設後ほどなくモダンデザインの代表的作品の収集を開始しました。デザインは、新たな社会の登場や技術の発展に伴い、既存の枠を超えた領域として登場し、影響力を高め現在に至っています。当館が所蔵する現在ではなかなか手に入らない貴重なコレクションの数々をご紹介します。

2月13日(土)

14:00-15:00
物理学者・
南部陽一郎の人生と研究



学生時代の南部陽一郎

上羽貴大
大阪市立科学館 学芸員

2008年にノーベル物理学賞を受賞した物理学者・南部陽一郎博士。2021年に生誕100周年を迎えます。「物理学の予言者」とも呼ばれた天才は、現代の素粒子物理学の礎を築きました。福井で幼少期を過ごし、東京で学んだ南部少年は、なぜ物理学を志したのか。天才の研究生生活はいつも順風満帆だったのか。そして彼の研究は何を明らかにしたのか。博士の人生と研究をご紹介します。

15:00-16:00
作家・宮沢賢治の
人生と化学



宮沢賢治 (1924年撮影)

小野昌弘
大阪市博物館機構 学芸員

「銀河鉄道の夜」等の童話や「雨二モマケズ」で有名な宮沢賢治。作品には、仏教の教え、石や星といった自然科学の言葉が目につきます。また、「カリ球」、「リチウムよりもうつくしく〜」等、聞かれない「化学」の言葉も作品の端々にちりばめられています。なぜ、宮沢賢治は、化学の言葉もちりばめ、作品を制作したのでしょうか。今回は、宮沢賢治と化学の関わりについてご紹介します。

2月14日(日)

14:00-15:00
黒田泰蔵の
白磁の魅力



黒田泰蔵 白磁 2016年 白磁 イセ文化基金所蔵 Photograph by T. MINAMOTO

宮川智美
大阪市立東洋陶磁美術館
学芸員

黒田泰蔵(1946-)は、静謐な白磁の造形で世界的に知られています。作家は、45歳の頃に「轆轤成形 うつわ、単色」という条件を決めて制作するようになりました。白磁のうつわをつくることを「イエスとノーの間の言葉」を表現することに例えているように、私たちと同時代を生きる作家は、陶芸を通じて様々なことを表現しています。特別展「黒田泰蔵」に合わせて、その作品の魅力をご紹介します。

15:00-16:00
文様で楽しむ
「かわいい」柿右衛門



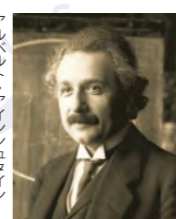
色絵 裏割図 八角皿 江戸時代・1670-1690年代 肥前・有田窯(柿右衛門様式) Yumeuzuras コレクション 写真:野村淳

巖由季子
大阪市立東洋陶磁美術館
学芸員

17世紀後半に生産された柿右衛門様式の磁器は、ヨーロッパに輸出されて王侯貴族を魅了しました。その特徴の一つとして、繊細な上絵付によって描かれている動植物や人物の文様があげられ、輸出先のヨーロッパでも模倣されるほど人気がありました。開催中の特集展「柿右衛門-Yumeuzuras セレクション」出品作品を中心に、魅力的な文様が描かれた柿右衛門様式のやきものを紹介します。

2月28日(日)

14:00-15:00
アインシュタインの見た大阪
~ノーベル賞受賞100周年にやせて

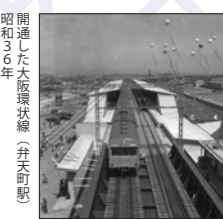


アルベルト・アインシュタイン

西野藍子
大阪市立科学館 学芸員

今から100年前、1921年のノーベル物理学賞を受賞したのは、かの有名なアルベルト・アインシュタインです。彼は1922年11月17日に日本を訪問し、12月29日までの43日間、全国各地をまわって講演を行いました。その時、実はここ、中之島でも講演を行っています。アインシュタインが訪れた当時の大阪周辺の様子や、人々の熱狂ぶりなども合わせて、アインシュタインの功績と来日のおよびについて、ご紹介します。

15:00-16:00
大大阪と環状線
—近代大阪の姿を探る—



開通した大阪環状線(弁天町駅 昭和36年)

船越幹央
大阪歴史博物館 学芸員

JR 大阪環状線を目印にして、大阪という都市を考える試みです。「大大阪」とは、大正後期から昭和初期にかけて、市域が拡大した大阪市を指します。かつて環状線が「都市」と「農村」の境界線になっていたことに着目し、昭和初期の大阪の3層構造を紹介します。そこから多様な大阪像を探り、「大阪とは何か」について考えていきます。

2月20日(土)

14:00-15:00
花の意匠の
やきものをみる



色絵桜花文様皿 徳川時代 江戸時代 立派な意匠(田原コノシロ)

杉谷香代子
大阪市立美術館 学芸員

描いたり、彫ったり、形をかたどったり—写実的なものからデザイン化したものまで—古来、花はやきもの定番意匠としてさまざまに表現されてきました。唐三彩、マイセン、富本憲吉など古今東西のやきものに咲いた花の特徴と、見どころを紹介します。あたかも植生のように、やきもの生産地域によって異なる花々へのまなざしを感じ取っていただけることでしょう。

15:00-16:00
ニッポンのかがやき
金属工芸の歴史



重要文化財 金銅 珠形形鉢 平安時代・12世紀 大阪・高野尊

児島大輔
大阪市立美術館 学芸員

日本の金属工芸の歴史は、銅鐸や銅鏡から仏具や茶釜など実に多様なジャンルの作品に彩られています。今回は大阪市立美術館の所蔵品と寄託品の中から国宝・重要文化財を含む金工品の数々をご紹介します。一見ただけではわからない用途や、金工品の見どころもあわせて解説します。繊細な造形や精緻な文様、金・銀・銅・鉄といった素材の特性を活かす技術など、その多彩な魅力に迫ります。

2月21日(日)

14:00-15:00
万葉集と
難波の考古学



古代の祭祀具住友銅吹所下層(大阪市中央区)出土 7~8世紀

杉本厚典
大阪歴史博物館
学芸員

日本最古の歌集『万葉集』は奈良について大阪の歌が多く詠まれ、難波(なにわ)は万葉人のもう一つの故郷と言えます。難波宮や難波津など、歴史の舞台となった場所の発掘調査や出土遺物など考古資料を中心に、万葉歌とともに飛鳥・奈良時代の難波を訪ねます。

15:00-16:00
大阪地下のクジラ



地下からみつかったカツオクジラの骨

地下からヒゲクジラの骨が見つかりました。陸地から海の生き物の骨がなぜ見つかるのでしょうか。化石がどのように調べられてきたか、その結果どんなクジラがみつかったか、鯨類の昔と昔々、そしてさらに古い世界の鯨類を紹介します。すばやく泳げるイルカや、ヒゲクジラのような濾過しながらエサをとり、大きな体を持つようになった系譜について紹介します。

2月27日(土)

14:00-15:00
平野の地下からわかる
昔の大阪の姿

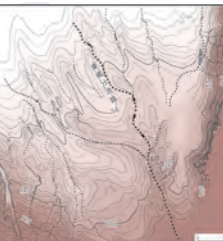


大阪市西成区、長橋遺跡の地層。台風によって浜辺を乗り越えた波が作った地層。

中条武司
大阪市立自然史博物館
学芸員

大阪平野の地下の地層を見ると、大阪がどのようにできていったかがわかります。今回は特に上町台地より西側で行われた遺跡発掘現場での地層から、かつての大阪の海岸線がどのように変遷してきたかを探ります。

15:00-16:00
発掘調査から復元する
先史・古代の
河内平野南部の
景観と人々の暮らし



河内平野南部の弥生時代中期(約2,100年前)の古地形と流路

大庭重信
大阪市文化財協会
学芸員

大阪市東南部から八尾市域の60の遺跡の発掘調査資料をもとに、河内平野南部の弥生時代から奈良時代までの古地形・流路の変遷、および地形環境に対応した人間活動の歴史をたどります。